

茨城県総合がん対策推進計画-第五次計画-スローガンに対する御意見について

※第2回検討委員会に向けてお寄せいただいた追加の御意見です。

(五十音順)

	御意見	委員名
1	<p>私も、「参療」については、茨城県独自のものなので、入れていただきたい。</p> <p>例：<u>「がんを知り 共に生きる」</u> ～さらなる県民の参療を目指して～ <u>「誰もががんを知り 共に生きる」</u> ～さらなる県民の参療を目指して～</p>	北見委員
2	<p>「がん」に対してまだまだ恐怖観を抱いている県民が多いのではないかと。 「がんを知り、がん向き合う」ことは必要ではあるが、向き合うことの恐怖が先行し、避けたい気持ちはあるのではないだろうか。</p> <p><u>「大事な人のために、がんを知り、がん向き合う」</u>等 少し、柔らかな表現では如何か</p>	白川委員
3	<p><u>「がん向き合い 豊かに生きる ～県民の参療を目指して」</u></p> <p>がん向き合い … 正しい知識を得、予防に取り組み、検診を受け、見つければ治療を受ける 豊かに生きる … それにより健康を維持し、がんの診断後も安心して治療と仕事などを両立して、がんを治し、末期には緩和ケアや在宅医療により尊厳をもって生きる 県民の参療を目指して … 誰一人取り残さない といった意味を込めています。</p>	沼田委員